



新板
繪入

歲德五葉松
二之卷

四十一書

~ 13
3605
1



門 へ 13
號 3605
卷 1



序

あしよりまききさる



歳始に沛悦貴方小向く先祿戸

作抑らんぬ富貴弟福謡ら先く方家

多追大馬春駒を鞠歌と一二三

回立巻ふ書なりくく狂言綺語笑

乃色香は梅枝み酔り鶯にあそ人

仁義のそ合と千代もかゝぬ教乃

若し〜をるに〜く〜ら始ぐ〜馬系
そちより世さ〜る本小鏝るも佳例
延年の筆れ表を色〜し〜し
と〜と海ま〜る〜し〜し

とらり乃

じつと月

作者

其美

瑞英



歳徳五葉松

まき之巻

目録

万葉の段

第一

野知女と京町の野知女に交

奏する物は何くとも毎ぐりごと

ぐり〜る女と京大朝小朝れ〜る

碎小系す〜る友を乃思心

第二

勳を以て奉り新に奉りて其の功を以て

しむるにたり合は長松系乃とれん

のくきりてい勇力かふんてん

を以てて合は奉りて其の功を以て

第三

小判の系乃ちりてい又みんぐん

自ら好態ぬらむくの金まれ

こころをいふにわきつけ座乃

深い海をの運物欲は亦ある活路

① やるやくく 京の町れやるやくく

徳系小五万家と清代もさ人ゆしく活路を内用

枝をちりてなわらり。具是桂へ徳とすし。物持

はく物とて軍といふらむ。乃茶の物とめり

奉奉化。活世乃。是利義。徳の武徳。なぬ茶本り

昔門のゆる。大松た。京を。奉。七。奉。春。興。り。も

立。書。と。て。京。浩。乃。田。中。の。か。を。代。奉。二。南。を。為。地。教。瓜

初。也。を。看。小。代。り。て。國。の。政。務。と。執。り。威。風。一。人。に。帰。す。

は。そ。と。ね。若。り。け。り。き。り。と。惟。京。宗。徳。二。年。と。と。し。ま。る。

初。め。本。の。芽。を。け。り。や。ぎ。家。中。の。め。ん。く。さ。ん。う。る。ま。さ。ら。や。さ。

青。湯。れ。色。と。あ。ら。う。一。南。を。つ。と。ら。ま。の。一。年。好。格。と。あ。ら。う。



たえつてしとねふくやふくちんがさういふ今時のあまのしづ
でござらうと。二人よりしづのねもあまのあまのしづ
月人納戸及もあまのしづのねもあまのあまのしづ
とねむのあまのしづのねもあまのあまのしづ
よちぎるあまのしづのねもあまのあまのしづ
このあまのしづのねもあまのあまのしづ
ふ月うさつよましと。海のうんちうらとあまのしづ
吸也維の中たる。大綱乃其意。然則若玉風の二月お食
さつてあまのしづのねもあまのあまのしづ
このあまのしづのねもあまのあまのしづ
このあまのしづのねもあまのあまのしづ
すそがさつてあまのしづのねもあまのあまのしづ

お出のついでしとねふくやふくちんがさういふ今時のあまのしづ
ゆく廣ちあまのしづのねもあまのあまのしづ
大綱乃其意。然則若玉風の二月お食
かあまのしづのねもあまのあまのしづ
たえつてしとねふくやふくちんがさういふ今時のあまのしづ
居合はあまのしづのねもあまのあまのしづ
物くさあまのしづのねもあまのあまのしづ
まじ。それあまのしづのねもあまのあまのしづ
優信子のあまのしづのねもあまのあまのしづ
あまのしづのねもあまのあまのしづ
け。そつとあまのしづのねもあまのあまのしづ
さつてあまのしづのねもあまのあまのしづ

○いふ
あつし
いふ
あつし
いふ
あつし

附
三
法
の
椽
で
漚
を
る
流
乃
舟
の
め
く
舟
の
色
色

壇浦女見其至

全部五卷

乃
合
及
な
ら
ん
と
瓜
の
蔓
た
ら
う
け
る
妹
背
れ
物
治
万
歳
と
舞
持
人
臨
侍
お
納
め
く
心
能
舞
臺

繪本雪月花

西川祐信正筆

全部三卷

い
ふ
ん
と
ま
ら
ん
と
多
く
歌
等
と
ま
の
せ
い
知
を
り
と
ま
る
い
ふ
ん
と
ま
ら
ん

右
の
書
も
高
正
月
二
日
か
本
出
と
ま
る
い
ふ
ん
と
ま
ら
ん

64680

